

東京都中野区東中野二―六―一四

JR総武線・地下鉄大江戸線 東中野駅より徒歩8分
地下鉄丸ノ内線・大江戸線 中野坂上駅より徒歩8分

第二回（令和六年度）

全国少壮吟詠家選考審査会

主 催 公益財団法人日本吟剣詩舞振興会

来聴歓迎・入場無料

Supported by

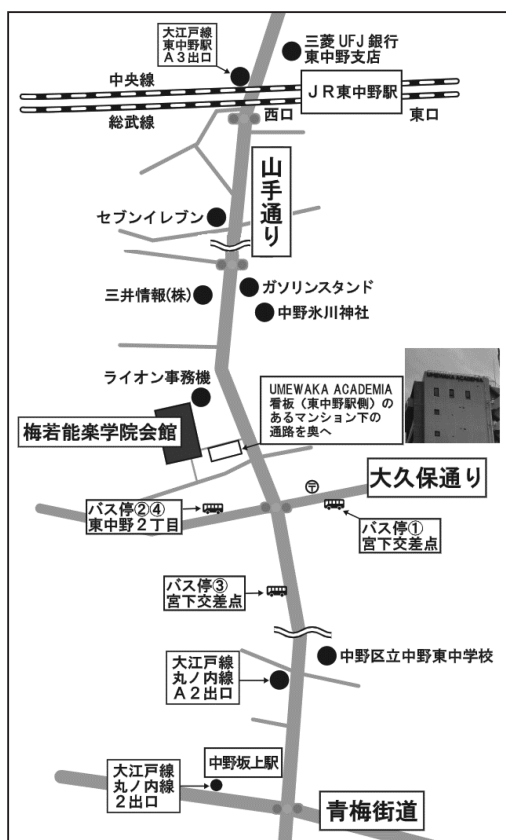


THE NIPPON
FOUNDATION

大会次第

- 一、一般審査用吟題抽選
- 一、開会の辞
- 一、国歌斉唱
- 一、財団会詩合吟
- 一、財団代表挨拶
- 一、大会実施要項説明
- 一、審査員紹介
- 一、競吟
- 一、審査結果発表並びに入選者表彰
- 一、閉会の辞

梅若能楽学院会館案内図



第二回全国少壮吟詠家選考審査会開催にあたって

よりいっそうの

吟道振興を



公益財団法人 日本吟剣詩舞振興会

会長 沼崎 富

昭和四十七年以来、半世紀にわたり実施して参りました「全国少壮吟詠家審査コンクール決選大会」は、入選者の中から数多くの名吟家を輩出してきましたが、社会情勢の変動等により年々挑戦者の減少傾向が顕著となり、予選大会が開催出来ない状況が続いております。

そのような事から当該の検討委員会を立ち上げ、議論を重ね、理事会・評議員会に於いて協議して参りました結果、従来のコンクールにつきましては、令和四年度の第五十回大会を最後とし、新たに令和五年度からは、「全国少壮吟詠家選考審査会」との名称とし、実施することと致しました。これまでの審査方式とは異なり、新たに面接や研修会を経て、挑戦者の人となりや技量を見極め、総合的に可否の判断を下す制度と致しました。

この選考審査会は、日頃の研鑽を競う場であると同時に

優れた少壮吟詠家選出を目的としたものであり、吟詠の芸術的向上を図ると共に、吟剣詩舞道界の将来を担う人材を育成するために設けられた制度であります。

出場者の皆様方には、日頃の精進の成果を十分発揮され、優秀な成績を収められますよう希望致します。そして、ご来場の皆様方には、芸術的・音楽的に進歩した吟詠の今日像を正しくご理解頂き、お一人でも多くの方が斯道に親しんで頂けますよう期待致しております。

終わりに、皆様方のご健勝ご多幸をご祈念申し上げます。私の挨拶と致します。

公益財団法人 日本吟剣詩舞振興会会詩

笹川 良 一作

朝に吟じ夕べに舞うて心身を錬り

礼節持し来って互いに真を養う

世界は一家皆我が友

願わくは斯道を興して人倫を正さん

第二回全国少壮吟詠家選考審査会大会役員

大会会長

沼崎 富

大会副会長

徳田 寿風

大会実行委員

早淵 鯉将

池内 賢二

藤上 翔山

藤本 誠堂

田中 国臣

古川 壽泉

吉田 魁桜

安田 水鈴

清水 錦洲

遠藤 晃楓

伏尾 琵琶城

河野 鶴聲

入倉 昭星

鈴木 吟亮

杉浦 英容

高木 法洲

◎大会参与

山本 兼正

星野 洲虹

田中 竜真

鈴木 啓仙

菱谷 彩佑

阿部 吟鳳

高橋 瑞祥

栗野 電暉

寺山 天洲

奥村 精暉

熊木 雪洲

黒田 秀月

佐々木翠鵬

飛田野神藍

石川 春洋

小林 北鵬

甕 経風

麻生 契春

鈴木 海洲

山下 神燈

木村 鳳鶴

後藤 月戈

上久保雪女

山田 伯峯

星野 紫虹

梶 鳳映

薦田 南尚

三橋 吟煌

久保田正峰

小峯 昊苑

鈴木 洲玉

齋木 彩染

石井 桃苑

松永 悠楓

志塚 心将

勝部 吼嶺

白男川洌風

毛塚 靜精

小林 岳章

丹治 独風

池田 嶺煌

◎審査委員長

徳田 寿風

特別審査委員

沼崎 富

審査委員

河野 鶴聲

藤原光伶子

前山 紫峰

河野 正明

清水 錦洲

田畑 水姫

和田 彩楓

池田 菖黎

◎大会特別顧問

小幡 神叡

益中 鵬山

廣重 光風

山路 泰洲

山本 賀陽

多田 正満

田中 岳藤

藤原 摂楠

前島 昊龍

日置 彩峰

横山 寿城

多田 正稔

八文字剛洲

山口 華雋

矢萩 鳳祥

野中 秀鳳

杉浦 容楓

山内 正風

安永 江悠

横山 精真

武田 禧洲

八代 輝靈

小野光翠扇

向山 侑吟

青柳芳寿朗

△県連代表▽

菊川八千穂

高橋 一誠

黒田 秀月

清水 錦洲

飯田 報信

北瀬 岳櫻

吉田 観心

高田 龍明

穴戸 岳荘

齋藤 心晃

毛塚 靜精

遠藤 晃楓

渡邊 皇洲

山田 静将

野村 岳粹

高橋 瑞祥

池田 嶺煌

田中 国臣

臼井 寛洲

山本 演志

山口 華雋

館岡 奥鵬

上田 岳美

石井 桃苑

小松 獅剣

松澤 天楓

堀口 孝心

渡辺 絃山

芳倉 清峰 藤上 翔山 楠部 齋山 高木 法洲
佐藤 翔風 中林 涼風 徳田 寿風 松井 松聲
原田 瑞祥 柿内 岳正 河野 鶴聲 安部 洸靈
伊藤 翠鳳 藤本 誠堂 中武 玲星 向山 侑吟
日向美代峰 吉本 緑翠

運 営 委 員

◎総務・庶務委員長 齋木 彩染
同 副委員長 梶原 麗修
◎資材管理 委員長 滝本 紫苑
◎計 時 委員長 山田 伯峯
同 副委員長 今村 契鉅
◎舞台進行 委員長 石井 桃苑
同 副委員長 宇井 修光
◎受 付 委員長 齋木 彩染（兼務）
同 副委員長 土澤 美岳
◎司 会 委員長 郡司 明風
委員長 田中 国臣
委員長 大山 宗鵬
◎詩文監査 委員長 佐々木翠鵬
同 副委員長 加藤 契琵
◎吟 題 委員長 伊藤 契麗
同 副委員長 石川 春海

◎音響記録 協力 さんしゃいん社

◎集 計 事務局 大塚 政暢

集 票 委員 西岡 緑優

◎接 待 委員長 林 煌彩

◎賞 典 委員長 武田 紫旭

◎賞状作成 委員長 鈴木 吟亮

◎会 場 委員長 多嘉良誠翔

委員長 石井 錦文

委員長 迫 翔豪

委員長 野上 吟鴻

委員長 木屋 萩優

◎大会本部 事務局 大田 直樹

事務局 大塚 政暢

事務局 森谷 文子

事務局 堤 由美

全国少壮吟詠家選考審査会 実施要項

- (1) この審査会は、公益財団法人日本吟剣詩舞振興会（以下財団と呼ぶ）が実施するもので、全国の少壮吟詠家を目指す者の選抜と研修及び審査を行う場とし、吟詠の芸術的向上を図り、あわせて吟剣詩舞道の普及振興に資することを目的に行うものである。
- (2) この審査会の参加資格は、財団加盟の各団体・各流・各会派所属の吟詠家で吟歴七年以上、指導歴三年以上の経験有する者。また年齢が令和六年四月一日現在、満三十歳以上五十五歳以下で、会長以上の責任者の推薦を受けた者、あわせて次のいずれかの資格を満たすことをその条件とする。
 - ・過去の全国少壮吟詠家審査コンクール決選大会入選者
 - ・財団主催の全国吟詠コンクール「青年の部」及び「一般一部」の上位入選者（一位から五位（過去の年度は問わない））
 - ・その他、特出した吟詠活動を行っていると思われる者
- (3) この審査会に参加を希望する者は、財団が行う書類審査に応募し、その中から選ばれた者が少壮吟士準候補（以下「同準候補」）選抜試験（選考会）に進むことが出来る。
- (イ) 同準候補選抜試験は、個人面接と実技（受験者が得意とする絶句一題をその場で吟じる）によって行われる。
- (ロ) 同準候補の定員は二十名以内を上限とする。
- (4) 同準候補となった者は、少壮吟士候補になるまで、一年に一度開催される研修（研修会）の受講と、同じく一年に一度開催される審査（審査会）に計三度合格することが求められる。ただし過去の全国少壮吟詠家審査コンクール決選大会入選経験者はその限りではなく、一回入選者は二回の合格、二回入選者は一回の合格で少壮吟士候補と認められる。
- (イ) 同準候補は、一年の内の研修及び審査のいずれを欠いても不合格

とする。

- (ロ) 三回挑戦したうち、一回も入選しない同準候補はその資格を失効する。
- (ハ) 審査会は公開で実施するものとし、後に示す審査会実施要項に基づき行う。
- (ニ) 少壮吟士候補への昇格者等が出た場合、その欠員分を翌年募集する。
- (ホ) 同準候補は、少壮吟詠家選考審査会を受けている期間中、全国吟詠コンクールへの参加など他の活動も並行して行うことが許される。
- (ヘ) 資格失効した同候補者の再受験は認める。ただし他の受験者と同じく、面接試験から受け直さなければならない。
- (5) 少壮吟士候補として推薦された者は、別に定める資格審査を経たのち、全国吟剣詩舞道大会の式典において少壮吟士として認定、表彰される。

令和六年度全国少壮吟詠家選考審査会 審査会実施要項

- (1) この審査会は財団本部が主催し、その運営は全国大会実行委員会が担当して次の審査要領によって実施する。
 - (イ) 審査委員は原則として財団役員と邦楽専門家によって構成され、財団本部理事会で決定する。
 - (ロ) 一般審査において、同準候補は課題曲十五題の中から抽選で選択した一題（以下「抽選曲」）と、自ら選ぶ曲一題（以下「選択曲」）の計二題を吟じる。
 - (ハ) 出吟順は、厳正公平な抽選で決定した審査会プログラム順の順番どおりに行い、まず抽選曲を一巡した後、選択曲を同じ順番で一巡する。
 - (ニ) 抽選曲の決定方法を次の通り定める。
 - a. 封筒十五通を一組とし、この封筒の中に課題曲十五題のうちの一曲の詩文六枚ずつを入れておく。
 - b. 出吟者は十五人区切りで区分し、出場順の若いほうから抽選する。

c. 出吟者は六枚の詩文に出吟番号、氏名、音階及び曲目（音階及び曲目の記入は一枚のみ）を書き込み、吟題委員長に提出、吟題委員長は確認印を押し、一枚を司会、一枚を音響（音階及び曲目記入分）、一枚を詩文監査、二枚を発音審査委員に提出、一枚を出吟者に渡す。（出吟中この詩文を見て吟じてもよい）音階は、あらかじめ届け出たものとし、当日の変更は認められない。

d. 吟題委員は別に出吟者詩文原簿を作成する。

e. 抽選は、開会式前に公開で行う。

(ホ) 選択曲については、財団刊行の「吟剣詩舞道漢詩集 絶句編」および「吟剣詩舞道漢詩集 続絶句編」掲載の中から得意なものを一題選択する。ただし「全国少壮吟詠家選考審査会」一般審査指定吟題十五題からの選択はできない。

(ヘ) 選択曲については、音階及び曲目と共にあらかじめ財団に届け出たものとし、当日の変更は認められない。また詩文を見ながら吟じることは許されない。

(ト) 吟じ方は、まず司会者が出場者の番号・氏名・吟題を紹介し、出場者は財団指定の「吟剣詩舞道伴奏集」の前奏を確認して吟じ始める。吟題は言わず、出吟前後の敬礼は省略する。

(チ) 吟詠時間は吟じ始めてから二分以内に吟じ終るものとする。

(リ) 次の場合は失格とする。

a. 出吟までに吟題決定の所定の手続きを行わなかった場合。

b. 出番のときいなかった場合。

c. 課題吟以外のものを吟じた場合。

d. 詩文の読みが指定されたものと異なった場合。

e. 吟詠の途中で絶句（つかえること）した場合。

f. 吟じ始めてから二分を超えた報せのベルが鳴った場合。

g. その他、審査委員長が失格と認めた場合。

(ヌ) 成績の判定は「吟詠コンクール審査規定」（日吟振内規）によるものとし、発声（声質、技術）、調和、発音、詩心、態度の五項目とし、得点の多い者を上位者とする。同点の場合は審査委員長（または委員長代行）の得点が多い者を上位とする。審査委員長（代

行）の得点も同点の場合は、審査員のプログラム掲載序列順に、上位の審査員の得点が多い者を上位とする。

(ロ) 審査の採点は次の各項にウエイトを置いて行う。

a. 声の美しさ、品性、洪さなどとともに、発声の自然さ、声量の豊かさ、声の明瞭さ、節回しのよさがあるかどうか。

b. 伴奏曲と調和（音程を含む）しているかどうか。

c. 共通語アクセント（わたりを含む）及びガ行鼻音が正確かどうか。

d. 詩情表現の確かさ、味があるかどうか。

e. 舞台マナー、吟詠マナー、社会人としてのエチケットが備わっているかどうか。

(2) 合格者は審査終了後、審査委員会議で決定され、その発表は一般審査の終了後に行われる。

(3) 特別審査等規定を次のとおり定める。

(イ) すでに二回合格している人は、一般審査での成績が上位の場合は、一般審査終了後に行われる特別審査に出場する。

(ロ) 特別審査の吟題は律詩課題制とし、出場者吟詠終了後、直ちに行為れる五人単位の抽選によって決められたものを吟じるものとする。特別審査は詩文を見て吟じてもよい。

(ハ) 特別審査出場者のうち、特別審査で一定の基準以上の成績を収めた人は合格とし、少壮吟士候補として推薦される。

(ニ) 特別審査出場者のうち、特別審査で一定の基準以上の成績を収めることができなかった人は、合格者とみなされない。

(4) 審査会参加者の特典を次のとおり定める。

(イ) 合格者は大会当日会場で審査会合格者として表彰し、次年度に行われる各種全国大会への出演者に推薦される。

(ロ) 少壮吟士候補として推薦された人は、別に定める資格審査を経たのち、全国吟剣詩舞道大会の式典において少壮吟士として認定、表彰される。

「注意」

- 一、詩文の読み方は財団発行の『吟剣詩舞道漢詩集』に、また詩文のアクセントは財団発行の『吟剣詩舞道アクセント付き漢詩集』によります。
- 二、出場者が、抽選用詩文用紙以外の詩文を見ながら吟じる場合、用紙の大きさは、はがき大とします。
- 三、成績発表並びに賞状授与の時に不在の人は失格となります。
- 四、本コンクールにおいて財団が撮影した写真や映像については、財団が発行する雑誌、公式ホームページ及びテレビ放映などにて使用場合があります。

予 告

●令和七年度夏季吟道大学

▽と き 令和七年七月十二日（土）

～十三日（日）

▽ところ 勤労青少年水上スポーツセンター
（愛知県・碧南市）

●第五十五回全国吟剣詩舞道大会

▽と き 令和七年十一月十一日（火）

▽ところ 日本武道館（東京都・千代田区）

令和六年度全国少壮吟詠家選考審査会
一般審査指定吟題

【少壮審査会】

- | | |
|---------------------|---------|
| ① 河内路上 | （菊池溪琴） |
| ② 花朝澱江を下る | （藤井竹外） |
| ③ 漫述 | （佐久間象山） |
| ④ 富嶽 | （乃木希典） |
| ⑤ 蜀中九日 | （王 勃） |
| ⑥ 黄鹤楼にて孟浩然の広陵に之くを送る | （李 白） |
| ⑦ 折楊柳 | （楊 巨源） |
| ⑧ 烏江亭に題す | （杜 牧） |
| ⑨ 応制天の橋立 | （釈 希世） |
| ⑩ 石鎚山 | （海量法師） |
| ⑪ 母を奉じて嵐山に遊ぶ | （頼 山陽） |
| ⑫ 舟八島を過ぐ | （正岡子規） |
| ⑬ 山房春事 | （岑 参） |
| ⑭ 己亥の歳 | （曹 松） |
| ⑮ 梅花 | （王安石） |

【少壮審査会・特別審査】

- | | |
|----------|--------|
| ① 九月十五夜 | （菅原道真） |
| ② 筑前城下の作 | （広瀬淡窓） |
| ③ 大楠公 | （河野天籟） |
| ④ 帰省 | （狄 仁傑） |
| ⑤ 山中の月 | （真 山民） |

()内数字は入選回

〔三回入選者一六一名〕

大森	岩永	今城	長谷川	植田	向山	山中	今村	田中	大木	前山	臼井	吉村	白波	薦田	山下	田中	陶山	中澤	森下	渡辺	金井	石井
加織	優	栄子	英子	恵理子	里水	富美子	晴夫	文夫	津多代	良彦	寛雄	都嗣	瀬正司	欣吾	勝春	幹康	昇平	治重	誠正	修正	常幸	武
(45)	(44)	(41)	(40)	(36)	(35)	(19)	(25)	(29)	(28)	(23)	(14)	(9)	(16)	(9)	(9)	(5)	(6)	(6)	(5)	(1)	(1)	(1)
(47)	(46)	(44)	(41)	(39)	(37)	(20)	(33)	(30)	(29)	(26)	(21)	(16)	(17)	(10)	(11)	(9)	(7)	(7)	(6)	(4)	(2)	(2)
(49)	(47)	(45)	(42)	(40)	(38)	(36)	(34)	(32)	(30)	(27)	(24)	(21)	(18)	(14)	(12)	(10)	(9)	(8)	(7)	(5)	(4)	(3)

△二回入選者八十一名

前重	太田	大野	玉村
興亮	加代子	悠光	暢郎
(11)	(8)	(4)	(1)
(17)	(10)	(5)	(4)

渡辺ヨリ子	中嶋初子	木村学	樋口捷一
(10)(17)	(8)(10)	(4)(6)	(2)(3)

綿引 建次 (2) (3)
久賀美和子 (6) (8)
広山幸太郎 (11) (13)
長谷川ユウ子 (16) (17)

山本	加藤	甘利	上原
墨江	桂子	修一	豊
(13)	(12)	(4)	(2)
(18)	(13)	(8)	(6)

安藤	橋本	酒井	小川
定喜	東峰	純	澄子
(17)	(13)	(6)	(2)
(18)	(14)	(8)	(3)

本 田 修 二 朗	鈴 木 輝 明	松 隈 睦 子	中 川 好 和
(18) (19)	(13) (14)	(8) (9)	(2) (3)

埜 辺	太 田	加 藤	関 口
保 英	弘 子	佐 喜 子	法 男
(14)	(15)	(6)	(2)
(19)	(16)	(10)	(4)

〆一回入選者一五二名

飯森福太郎(1) 平形亨(1) 豊満富治(3) 多々良剛(4) 朝倉芳男(5) 山本晴信(6) 緑川都子(8) 園山順子(10) 柳内修(12) 松崎圓子(15) 神賀明子(17) 岡林一孝(20) 西原玲子(24) 鈴木順子(26) 大島哲夫(28) 盛満眞弓(30) 田村純子(32) 坂本裕視(37) 石田義則(39) 栗田優子(43) 植田そのみ(46) 阿部香織(50)

佐藤弘子(13) 山城明久(7) 池田功(22) 佐藤喜知子(23) 中筋和子(30) 甲斐君子(33) 岩城伸子(38) 今井美津子(44) 今井美津子(45)

山本琳子(1) 三好紀夫(2) 鈴木恵子(3) 町田敏子(4) 佐々木敏郎(5) 田中稔(6) 大川行男(8) 為房進一(10) 久和かず子(12) 一色敏子(15) 大西博美(17) 板谷加代子(21) 岩間弘光(24) 永渕みどり(27) 富山正一(29) 河田久子(30) 麻生義人(34) 丹羽峰子(37) 森脇弥生(39) 下河邊智佳子(43) 林田麻由(47) 荒崎有紀江(50)

中川千鶴(16) 久保義嗣(18) 堀井良美(24) 菰田初子(27) 宮崎瑞枝(31) 牛尾明(36) 南方栄(37) 梅村佳代(45) 梅村佳代(46)

長屋幸吉(1) 松坂比呂志(2) 吉田佳子(3) 斎藤喜八郎(4) 清水口晴子(5) 日置則男(6) 後藤幸代(8) 安部功二(11) 金子今朝美(13) 早瀬悦子(15) 村上和美(18) 舛田萬和(21) 村勘利和(24) 森田智子(27) 竹内芳子(29) 山本やすみ(30) 大野広美(34) 小坂友二(38) 安部悦子(40) 赤塚善夫(44) 高橋恵子(47) 荒崎春奈(51)

入江敏夫(17) 黒田せつ子(22) 湯本忠夫(20) 森本三恵子(27) 小川美登里(32) 村山涼子(34) 井川良得(37) 竹内彩(45) 竹内彩(46)

児島忠夫(1) 莊司愛(3) 秋葉喜代子(3) 羽切弘行(4) 陶山邦男(5) 深沢勝昭(7) 前田嘉弘(8) 佐野智洋子(11) 大西幹久(13) 風呂谷照代(15) 横山真吾(18) 田村謙地(22) 金子昭二(25) 古城久美生(28) 渡辺久晃(29) 林潤子(30) 米田千春(35) 井本雅代(38) 松浦慶治(40) 吉澤純子(45) 辻寛子(49) 徳安秀作(51)

森川祐幸(15) 竹内喜八郎(23) 小林千弘(20) 正野初代(28) 樋口康子(30) 渡辺晴美(35) 藤原幸(40) 綿谷未由子(50) 綿谷未由子(51)

井口恵弘(1) 池川国章(3) 佐藤義信(3) 森下猛(4) 元岡專一(5) 佐々木孝子(7) 小谷集徳(9) 石原三喜雄(11) 西村淳子(14) 大山幸良(16) 小坂康子(18) 宮本俊明(23) 池田由乃(26) 谷崎次男(28) 黒柳貞子(29) 古賀千恵子(30) 石井町子(35) 榎本久美子(38) 吉本綾(40) 桶谷麻美(46) 中西光恵(49) 太田武志(51)

小野真理(20) 為国馨(18) 奥津公男(22) 岡野冴子(30) 佐藤慶子(25) 田村三幸(34) 津田千夏(41) 津田千夏(43)

伊藤ひさ子(1) 長峰康子(3) 本田昭(4) 高山正彦(4) 山本正(6) 笠原昭弘(8) 宮内美津子(9) 小塩益弘(11) 藤田九一郎(14) 藤田洋子(16) 平内美之(19) 武田志津子(23) 塚本金吾(26) 大石千津子(28) 澤田智子(30) 加茂久子(31) 亀井きみ子(35) 北川達也(39) 古賀智美(41) 高橋真衣子(46) 吉田あゆみ(50)

平田公三(16) 矢野泰三(14) 北浦宏子(23) 胡中緑(30) 清水昌子(32) 甫守美和子(37) 春藤薫於里(42) 春藤薫於里(43)

幸田勝弘(1) 米谷さつき(3) 石本今朝幸(4) 葉林睦朗(4) 佐藤美智子(6) 中山駿一(8) 松永恒夫(10) 染田恭次(12) 松本浩有(15) 藤岡静江(17) 寫田智恵子(19) 森田和子(24) 廣瀬早百子(26) 石原光浩(28) 橋本貴守(30) 児島節(32) 粥川しげ子(36) 吉田博(39) 仲宗根香(41) 赤松由紀(46) 井戸隆裕(50)

藤本佐喜子(20) 福島弘子(23) 北村孝子(25) 中谷紀子(32) 古賀美智子(29) 瀧下和雄(37) 藤井真美(43) 藤井真美(45)

◆審査会出場者

※抽選曲・選択曲ともプログラム掲載の順番にて実施する。

出吟順	氏名	流・会派名	推薦	入選	成績
9	林田 麻由	淡窓伝光霊流日本詩道会	大分	1回	
8	荒崎 春奈	紫虹流吟剣詩舞会	神奈川	1回	
7	中西 光恵	紫洲流日本明吟会	兵庫	1回	
6	辻 寛子	岳精流日本吟院	神奈川	1回	
5	井戸 隆裕	詩道楠水吟詠会	大阪	1回	
4	梅田めぐみ	淡窓伝光霊流日本詩道会	大分		
3	太田 武志	日本修道流吟詠会	千葉	1回	
2	徳安 秀作	関西吟詩文化協会緑扇会	福岡	1回	
1	甫守美和子	日本吟声流	福岡	2回	

出吟順	氏名	流・会派名	推薦	入選	成績
17	吉田あゆみ	淡窓伝光霊流日本詩道会	大分	1回	
16	荒崎有紀江	紫虹流吟剣詩舞会	神奈川	1回	
15	原 奈緒子	奉観流詩吟道	三重		
14	綿谷未由子	吟道関心流	三重	2回	
13	七五三聖子	吟道撰楠流総本部	兵庫		
12	土方 圭秀	呉陽流吟詠会総本部	東京		
11	桶谷 麻美	日本詩吟学院富山桜吟会	富山	1回	
10	吉澤 純子	契秀流吟詠会	東京	1回	